



岡山県立図書館

児童図書研究室だより

平成 25 年 7 月 30 日 発行

Vol.13

追悼 児童文学者・鳥越信

2013年2月14日、児童文学者の鳥越信氏が逝去しました。日本の児童文学に興味を持った人なら、気がつかないうちにも、鳥越氏の恩恵に浴しているにちがいありません。

1953年、鳥越信氏は早稲田大学の学生の時に、古田足日（『おいしいのぼうけん』『宿題ひきうけ株式会社』等の著者）とともに「少年文学宣言」を発表し、当時の児童文学の関係者に衝撃を与えました。趣旨に賛同する人には神宮輝夫（アーサー・ランサム『ツバメ号とアマゾン号』、センダック『かいじゅうたちのいるところ』等の翻訳者）、山中恒（ボクラ少国民シリーズ、『ぼくの町は戦場だった』の著者）などがいました。「少年文学宣言」は、それまでの児童文学の主流であったメルヘンや生活童話、無国籍童話、少年少女読みものを克服し、児童文学を近代文学まで高めることを目的にしていました。その手段として、小川未明や浜田広介らの童話を批判しました。（古田足日著『現代児童文学論』『さよなら未明』参照）その宣言に対しての反論も多くあり、また、その後、宣言者たち自身の手によって、自己批判されつつありますが、子どもの読みものも文学という高みを目指すべきという方向性を示したことに意義があるといえるでしょう。

氏は大学卒業後、岩波書店で石井桃子とともに岩波少年文庫の編集に携わり、海外の児童文学の紹介につとめたのち、1960年に早稲田大学で教鞭をとります。多くの著作にはげむ一方、日本児童文学の歩みを検討するための資料収集を行い、その研究が1975年と1977年に出版された『講座日本児童文学 別巻1 日本児童文学史年表1』と『同 別巻2 日本児童文学史年表2』に結実しました。「日本の児童文学に関連するあらゆる事象を、総合的・網羅的にとりあげ、それを編年体の表に示そうと試みたもの」¹であり、全て資料の実物にあたったうえで掲載し、図書に限らず、雑誌の書誌的事項について忠実に記述されていることが、画期的なことでした。

そうした研究の過程で収集した資料が膨大な量になり「鳥越コレクション」と呼ばれるようになり、児童文学を志す学生がその資料の閲覧を願ひ出ることも多くなったそうです。そこで、早稲田大学を退職した1979年、大阪府へこの12万点余りのコレクションを寄贈し、これらをもとに、児童文学の専門図書館として大阪国際児童文学館が開館しました。鳥越氏はその総括専門員として長くその任にあたります。大阪国際児童文学館は、図書館と博物館の中間のような性格を持ち、図書館で行われる子どもの読書支援の方法論そのものを研究・開発する基礎研究機能と、マンガ雑誌のような児童向けの出版物全般を収集・保存する機能という、独自の2つの機能を持っていました。しかしながら2008年2月に財政再建プログラム（「大阪維新」プログラム）において、府立図書館との統廃合案が示され、2009年12月27日をもって大阪国際児童文学館は閉館しました。その後資料を移し、2010年5月5日に大阪府立中央図書館国際児童文学館として新たに出発し現在に至っています。

※岡山県立図書館ホームページから、当館が作成した鳥越氏に関する年譜や資料リストを見ることができます。
(<http://www.libnet.pref.okayama.jp/event/tenji/image/2013/jidou/torigoeshin250521.htm>)

1 鳥越信編。(1975). 講座日本児童文学 別巻1 日本児童文学史年表1. 明治書院.

岡山県立図書館の夏休みの事業について

図書館の児童資料部門にとって、イベント事業は子どもと読書を結びつける重要な業務の一つです。また、夏休みには多くの子どもたちが図書館に注目する時期でもあります。そこで、岡山県立図書館では、今年度次のような事業を計画しています。

○小学生のためのストーリーテリングおはなし会 〈実施済み〉

【7月24日(水), 25日(木), 26日(金) いずれも14:00~15:00】

ストーリーテリングとは、語り手が絵本を使わず、物語を語っていくことです。日本、イギリス、中国など世界の昔話を語っていきます。聞き手は、語り手の世界に引き込まれ、いつの間にか夢中になっているのが分かります。小学生に向けてということで普段のストーリーテリングの会よりも少し長く、1時間となっています。

7/24(水)「ねずみ浄土」「なら梨とり」「こすずめのぼうけん」「王子さまの耳はロバの耳」「金色とさかのおんどり」「アナンシと五」

7/25(木)「三びきのこぶた」「おいしいおかゆ」「ふるやのもる」「なら梨とり」「屋根がチーズでできた家」「くるみわりのケイト」

7/26(金)「大工とおにろく」「びんぼうこびと」「エバミナンダス」「かしこいモリー」「あなのはなし」「桃太郎」

○小学生のための絵本の会

【7月21日(日), 27日(土), 8月3日(土), 4日(日), 10日(土) 15:00~15:40】

小学生にもっと絵本の楽しさを感じてもらうために、小学生に向けておはなし会を行います。普段行っているおはなし会の時よりも長い絵本を読み聞かせしていきます。時間は40分間です。小学生を対象にしていますが、毎年、年齢を問わず、多くの方が来てくださっています。興味のある方はどうぞお越しください。

○調べ学習秘密基地

【夏休み期間中】

おはなしのへやを使って、夏休みの自由研究に役立つ資料を展示します。「自由研究で何を調べたらいいんだろう。」「いい本はないかな。」と困ったときに参考になるよう、調べる題材の提案や、参考図書を展示しています。今年は「このテーマで調べるならこの本がおすすめ!」と、30のテーマについてそれぞれ本を紹介しています。ぜひ、ご活用ください。

◇◆◇イベント情報◆◆◇

おはなしの夕べ

絵本を使わず物語を語るストーリーテリング。今回はそのストーリーテリングを語り始めたばかりの方たちがその成果をお披露目します。

たくさんの魅力的なおはなしが語られるこの機会に、物語の雰囲気ぜひ味わってください。

◆①平成25年8月9日(金)16:00~16:40

②平成25年11月9日(土)16:00~16:40

◆場所：岡山県立図書館

◆申込み：不要

◆入場無料

平成25年度 とことん活用講座

「マザーグースについて」

くらしき作陽大学の吉岡由佳氏を講師として招き、イギリス生まれの伝承童謡といわれるマザーグースについて講演していただきます。

◆平成25年10月20日(日)

14:00~16:00

◆場所：岡山県立図書館2階デジタル情報シアター

◆申込み：82名(先着順)

9/20(金)より電話、FAX、メールで受付

◆入場無料

春のおはなし会を催しました

4月27日（土）に「ヨムヨム春のおはなし会」を催しました。今回は「科学」をテーマにして、前半は絵本の読み聞かせ、後半はいろいろな科学工作をしました。まず、読み聞かせでは、ボランティアが『わごむほどのくらのびるかしら』、『たしかめてみよう』、『このあいだになにがあった』、『おまたせクッキー』を読みました。特に『わごむほどのくらのびるかしら』では、家のベッドに引っかけたわごむが、最後は宇宙まで伸びていってしまうという話です。この話を聞いた子どもたちは、「ありえない。」「うそー。」といった声を上げ、喜んで聞いていました。次には、科学実験遊びと工作をしました。磁石、空気、静電気を使った実験や、「スライム」、「ゴムガエル」、「風船ゴマ」などの工作合わせて7つのコーナーを設けました。自分のしたいもののコーナーを選び、作って遊んだら次へ行くようにしました。作るものを順番に紹介していくと、子どもたちの「早くしたい!」という期待感が高まり、一目散に自分のやりたいコーナーへ走っていきました。一番人気は「スライム」でした。テーブルにあふれるほどの子どもたちが集まり、何色のを作ろうか楽しそうにしていたのが印象的でした。小さな子どもも参加していましたが、コーナーが7つあったので、選択して作れるのが好評でした。帰り際に、スライムや浮沈子の作り方を知りたいという親子もいて、興味をもって体験してもらえたようです。



ボランティアスキルアップ講座を催しました



5月31日（金）に第1回ボランティアスキルアップ講座「ボランティア活動を通してー読み聞かせの実際」を開催しました。県立図書館と市町村立図書館や学校図書館の読み聞かせボランティアをあわせて60名の参加がありました。

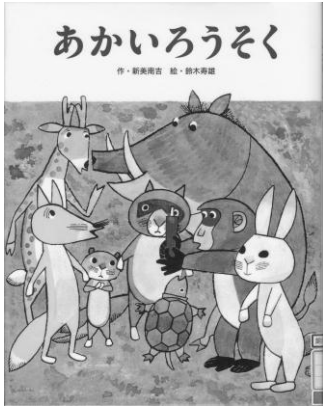
はじめに、県立図書館職員が図書館の児童サービスとボランティアの関係についてお話し、その後、県立図書館の読み聞かせボランティアでもあるメンバー（岡山県子ども文庫連絡会所属）が、読み聞かせをする際の注意点や絵本の選び方等について、経験を踏まえて講義と実演を行いました。終了後、自分のやり方を振り返るよい機会になった、実演が具体的で分かりやすかったとの意見をいただきました。また、県立図書館職員にとっては、内容について事前に何度も話し合いを行ったことで、お互いの考えを深めたり、共有したりでき、良い機会となりました。

図書館職員等研修講座（兼ボランティアスキルアップ講座）を催しました

7月4日（木）に図書館職員等研修講座（児童サービス）「2012年度話題になった児童書」を開催しました。今回はボランティアスキルアップの講座との合同開催とし、100名を越える参加がありました。当館の児童書全点購入を活かし、さまざまなメディアに取り上げられた児童書をピックアップして紹介する講座です。特に調べものの本については、類似の資料の内容を見比べることができ、参加者は、会終了後に本を手にして、熱心にメモを取っていました。



新着図書紹介



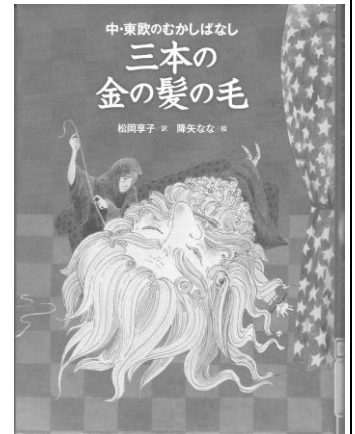
『あかいろうそく』 新美南吉／作 フレーベル館 2013.5

ある日、さるがめったにない、あかいろうそくを拾いました。さるは花火だと思い込み、大事に山に持って帰りました。さるは、仲間の動物たちを引き連れて山のとっぺんに行きました。さるは、木の枝にろうそくをくくりつけて、花火を打ち上げる準備をしました。しかし、誰ひとりとして、ろうそくに火をつけようとはしません。そこで、じゃんけんで火をつける人を決めました。一番手は、カメ、その次は……。果たして動物たちは、ろうそくに火をつけ、花火を見ることができるようでしょうか。

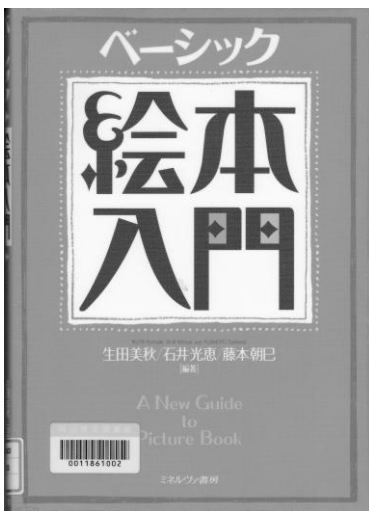
この作品は、新美南吉が22歳の時に書いた名作を復刊したものです。新美南吉生誕100年にあたる2013年、ぜひ、彼の世界に触れてみてください。

『三本の金の髪の毛』 松岡享子／訳 のら書店 2013.4

この本は、中・東欧の昔話のうち、特に語り手に好まれているものを訳者が16話選んでできています。本のタイトルにもなっている『三本の金の髪の毛』は、ある日、狩りの好きな王が森の中で迷い、炭焼き小屋の男の家に泊めてもらいました。その夜、炭焼き小屋夫婦に赤ちゃんが生まれ、不思議な白い布をまとった3人の年寄りが周りを囲みながら、将来、大きくなったときに、王の娘を嫁として授けることを赤ちゃんに約束しました。そののち、美しい若者に成長し、年寄りの約束通りに、王の娘と結婚しました。しかし、その結婚に王は立腹し、若者に「すべてを知る知恵の老人の金の髪の毛を3本持ってこなければ、認めない。」と無理難題をつきつけます。さて、若者は、この難題を無事、乗り越えることができるのでしょうか。東欧の昔話は、悪魔や魔女が生活の中で身近な存在として扱われ、一種、濃密な雰囲気を感じさせます。この本によって、新しい昔話を知り、繰り返し読むことの楽しさを味わえます。



児童図書研究書



『ベーシック絵本入門』

生田美秋、石井光恵、藤本朝巳／編著 ミネルヴァ書房 2013.4

本書は主に学校で絵本論を学ぶ学生のために編集された入門書で、絵本論の基礎的事項について体系的に解説しています。さらに、必読絵本として60冊の絵本を取り上げ、作品ができた背景や世間の評価やその変遷など丁寧に解説しています。

また、本書は欄外に用語解説などの注記や、巻末資料として、絵本年表や絵本の賞など絵本論を学ぶために欠かせないものが充実しています。数多くの参考文献も紹介されており、それらの文献をたどっていけばより知識を深めることもできる作りとなっています。

お問い合わせ先

岡山県立図書館サービス第一課児童資料班

Tel : 086-224-1286 (代表)

Fax : 086-224-1208